

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	ものづくり大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	モノツクリダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップA
	学部・研究科等名	技能工芸学部 製造学科
	担当教職員名・役職	インターンシップ担当教員19名
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	79	
受入企業等数	85	
受入企業等名	田中産業株式会社、応用計測サービス株式会社、株式会社ユニテックギア、株式会社東京チタニウム、銀河ソフトウェア株式会社、旭ダイヤモンド工業株式会社、有限会社ステンレスアート共栄、国土情報開発株式会社、合資会社薄井電機製作所、サンライズ工業株式会社、株式会社木村鋳造所、株式会社田口型範、株式会社協立工機、日立オートモティブシステムズハイキャスト株式会社、有限会社野火止製作所、有限会社太洋モータース、丹羽鋳造株式会社、国立研究開発法人理化学研究所、野口精機株式会社、三芳合金工業株式会社 他65社	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	金属材料メーカーや金属加工製品企業、機械装置・部品製造企業等での、生産現場での実務経験を通してものづくりの様々な様子や現場での決まりごと等を知り、工夫する力、創造する力を養成することを目的としている。職種内容は、実際の部品加工から組立、機構設備設計等であり、様々な現場で就業体験を行っている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	8単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	製造業および関連する企業等の生産現場・実務現場での研修を通して、ものづくりに関連する業務の様々な様態に触れ、工夫する力、創造性を養うとともに仕事をする意味を理解し、自らの適性を見つめ、将来像を構築することを教育目的としている。なお、生産現場・実務現場での研修を通して、仕事をする意味や職場での品質・コスト・安全管理に対する考え方、コミュニケーションの必要性などを体得することを到達目標としている。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ開始前に、インターンシップ制度の説明会(12月頃)、担当教員との事前面談(1月頃)、安全セミナー及び社会常識マナーセミナー(5月頃)の参加を必須とし、全てを受講した学生のみ6月より40日間のインターンシップを実施している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後、パワーポイント1枚分の成果報告書と研修概要、研修予定の相違点、疑問や問題点等をまとめたレポートの提出を義務付けている。成果報告書については、提出後企業担当者への報告・確認を経て、1冊に取りまとめ公開している。また、学科内成果報告会として発表会の実施及び企業担当者を招いてのインターンシップ成果報告会を開催している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ受入先企業1社に対し1名の担当教員が配属されている。インターンシップ中の電話連絡を行い、研修態度等企業担当者と随時打合せを行っている。また、期間中に1回以上の巡回指導を実施しており、企業担当者だけでなく、インターンシップ中の学生との面談を通して、研修内容の確認・調整を行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは学内での教育・指導だけでは得られない職場におけるルール・マナーの習得や職業的自立能力の大幅な向上に繋がりが、その後の就職活動でのコミュニケーション力や経験を踏まえての自己PR等に成果を発揮している。また、期間中は日報・週報の作成を通じて日々の取り組みを明確に把握させるとともに、終了後は成果報告書の作成及び成果報告会を実施し、職業的自立に向けて自分の弱みや反省点などを整理させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実働40日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間は、実働40日間で義務付けている。体調不良等で欠勤した場合は、インターンシップ期間の延長を依頼し、実働40日の確保に努めているが、受入先企業の都合により期間が短くなる場合は、他企業での追加研修や学内での課題・研究活動補助等により充填している。	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素 ⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの派遣先企業には担当指導教員が割り当てられており、配属学生は担当指導教員及び受入企業と適性チェックや心構え、安全に対する指導を目的に事前の面談を実施している。また、問題・課題解決型の研修テーマ(PBL型研修)を決め、その問題・課題解決を目指した研修も可能としている。さらに、インターンシップ先を対象に企業アンケートを継続して行っており、活動への評価を通じた教育成果の評価を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.iot.ac.jp/cgi-bin/faculty/syllabus/index.cgi
問い合わせ先	大学等名	ものづくり大学
	担当部署名	学生課就職・インターンシップ係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	048-564-3818
	メールアドレス	internship@iot.ac.jp